

## (2) 看護職者のワーク・ライフ・バランスに関する研究

—中期キャリア女性看護職者の視点から—

川崎医療福祉大学大学院保健看護学専攻 ○摺元 歩美

川崎医療福祉大学保健看護学科 杉浦 絹子

### 【要旨】

#### 〔目的〕

中期キャリア女性看護職者(臨床経験6~11年目)の若手看護職者の結婚・妊娠・出産することに対する見解と理想の妊娠・出産時期, 及び自身の妊娠中の経験を明らかにする。

#### 〔方法〕

ウェブ上の全国保険医療機関(病院・診療所)一覧の8540施設から, 病院の規模ごとに無作為層化抽出法し, 同意が得られた46施設の看護部長を通して対象に調査票を配布・個別回収した。配布数833部, 回収数530部(回収率63.6%), 有効回答数525部であった。

#### 〔結果〕

#### 1. 対象者の属性・背景

対象者の属性・背景は表1に示す。

#### 2. 妊娠中の経験

- 1) 流産経験者は20.1%で, 妊娠公表時期は妊娠9.2±3.5 (Mean ± SD) 週であった。
- 2) 妊娠公表後の職場の配慮は, 「力の必要な仕事を代わってくれた」が最も多く, 次いで「夜勤日数の減少」「一緒に仕事をすすめるメンバーの配慮」他, と続いた。
- 3) 夜勤日数は平均6.8日が, 妊娠公表後には平均1.9日へ減少した。
- 4) 職場の人間関係の変化は, 「負担な仕事を積極的に交代してもらえた」が最も多く, 次いで「体調を気遣ってもらえた」「妊娠を歓迎

し喜んでもらえた」他, と続いた。

- 5) 出産・子育て経験者に尋ねた理想の妊娠・出産時期は, 平均臨床経験年数は5.5±1.6 (Mean ± SD) 年で, その理由は「看護職者として一人前」が最も多かった。
- 6) 若手の結婚・妊娠・出産に対して, 出産・子育て経験者は【賛成群】73.6%, 出産・子育て経験のない者は【賛成群】81.4%であった。

#### 〔考察〕

本研究では, 流産率20%と一般労働者の17%より高かった。妊娠の公表は初期で, 職場では周囲の配慮がなされていた。理想の妊娠・出産時期は, 臨床経験4~6年目で, キャリア形成と妊孕性とを同時に考慮しているためと考えられる。また, 若手の結婚・妊娠・出産に対しては, 出産・子育て経験の方が, 肯定的意見が少なく, 自らの経験を踏まえ, 若手での妊娠・出産は慎重にすべきという見解の表れであると捉えられる。

表1 対象者の属性・背景

出産・子育て経験	あり240人(45.7%), なし285人(54.3%)
平均年齢	32.0±4.5歳
平均臨床経験年数	8.7±1.7年
雇用形態	正規雇用者94.7%, 非正規雇用者5.3%
職種	看護師95.2%, 助産師3.1%, 准看護師1.7%
結婚の有無	既婚者55.6%, 独身者44.4%
子の平均人数	1.7±0.7人